

2026 年 10 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社 I D O M
代表者名 代表取締役社長 羽 鳥 由 宇 介
(コード:7599 東証プライム)
問合せ先 CFO 西端 亮
(TEL 050-1749-8962)

第2四半期(中間期)業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

2026 年4月 13 日に公表した 2027 年2月期第2四半期(中間期)の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、2027 年2月期通期業績予想を下記とおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 2027 年2月期第2四半期(中間期)連結業績予想と実績値との差異(2026 年3月1日～2026 年8月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	301,000	11,900	11,100	7,050	70.21
実績値(B)	318,100	8,771	7,722	5,201	51.80
増減額(B-A)	17,100	△3,129	△3,378	△1,849	—
増減率(%)	5.7%	△26.3%	△30.4%	△26.2%	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2026 年2月期第2四半期)	270,298	8,078	7,339	4,875	48.55

2. 2027 年2月期第2四半期(中間期)個別業績予想と実績値との差異(2026 年3月1日～2026 年8月 31 日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	292,800	10,850	6,950	69.22
実績値(B)	304,798	7,173	4,905	48.85
増減額(B-A)	11,998	△3,677	△2,045	—
増減率(%)	4.1%	△33.9%	△29.4%	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2026 年2月期第2四半期)	262,785	6,947	4,652	46.33

3. 差異の理由

当中間連結結果計期間における売上高につきましては、大型店舗の順調な稼働等により堅調に推移しました。

一方、利益面におきましては、営業利益が 8,771 百万円、経常利益が 7,722 百万円、親会社株主に帰属する中間純利益が 5,201 百万円となり、以下の要因により前回発表予想を下回る結果となりました。

1. 小売販売におきましては、将来の出店に向けた中途採用の強化に伴い人材の戦力化までに一時的な育成期間を要したことにより、小売販売台数が期初計画の 90 千台に対し 88 千台に留まりました。なお、小売台あたり粗利につきましては、期初想定通りの水準を維持しております。
2. 第 2 四半期において例年を上回る急激な中古車オークション相場下落が生じたことに伴い、卸売処分から小売処分へのシフトを進めたものの、第 1 四半期における滞在在庫処分の影響等も重なり、卸売台あたり粗利が想定を下回って推移いたしました。
3. 下期に集中する大型店舗の新規開設に向けた店舗要員の先行採用および処遇改善に伴う人件費の増加、商談効率化と AI 活用を目的とした CRM 開発投資等の DX 関連費用の投下等により、販売費及び一般管理費が期初想定 410 億円に対し 432 億円へ増加いたしました。

以上の要因により、実績値と前回発表予想との間に差異が生じることとなりました。

4. 2027 年 2 月通期連結業績予想の修正(2026 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	629,000	24,000	22,400	14,200	141.42
今回修正予想(B)	655,000	18,501	16,422	10,501	104.58
増減額(B-A)	26,000	△5,499	△5,978	△3,699	—
増減率(%)	4.1%	△22.9%	△26.7%	△26.0%	—
(ご参考)前期実績 (2026 年 2 月期)	559,250	19,715	18,113	11,571	115.25

5. 2027 年 2 月通期個別業績予想の修正(2026 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	613,400	21,900	14,000	139.43
今回修正予想(B)	634,198	15,673	10,405	103.63
増減額(B-A)	20,798	△6,227	△3,595	—
増減率(%)	3.4%	△28.4%	△25.7%	—
(ご参考)前期実績 (2026 年 2 月期)	543,108	17,417	11,504	114.58

6. 修正の理由

通期連結業績予想につきましては、当中間連結会計期間の実績および下期以降の事業環境・費用構造の見通しを踏まえ、修正いたします。

売上高につきましては、資本効率を重視した大型店舗の新規出店計画を期初想定の 10 店舗から 13 店舗へ上方修正したこと、ならびに通期の卸売販売台数の増加見通しを反映し、前回発表予想の 6,290 億円から 6,550 億円へ上方修正いたします。

利益面につきましては、営業利益を 185 億円、経常利益を 164 億円、親会社株主に帰属する当期純利益を 105 億円へそれぞれ修正いたします。これは、上期において営業利益が期初計画に対し 31 億円下振れた実績を通期予想に反映したことに加え、下期における成長投資コストの増加を織り込んだことによるものです。

下期におきましては、第 1 四半期に実施した在庫処分に伴う在庫健全化、および新規大型店舗の稼働に伴う小売販売台数と台あたり粗利の向上により、売上総利益は期初想定を上回って拡大する見通しであります。また、上期に先行採用した人材の戦力化が進むことで、営業現場の生産性改善も見込んでおります。しかしながら、下期に集中する大型店舗 10 店舗の新規開設に伴う準備費用や設備投資関連費、人員体制の拡充に伴う人件費、ならびに買取強化に向けた広告宣伝費の投下など、中長期的な企業価値向上を見据えた積極的な成長投資を継続するため、販売費及び一般管理費が当初計画を上回って推移する見込みであります。

この結果、売上総利益の増加分のみでは高水準な成長投資に伴う販管費の増加分を完全に吸収することが困難となり、下期の営業利益見通しを 97 億円へ見直すことといたしました。これにより、通期の連結営業利益は 185 億円、連結経常利益は 164 億円、親会社株主に帰属する当期純利益は 105 億円となる見通しであります。なお、個別業績予想につきましても、連結と同様の要因および前提に基づき修正しております。

以上